
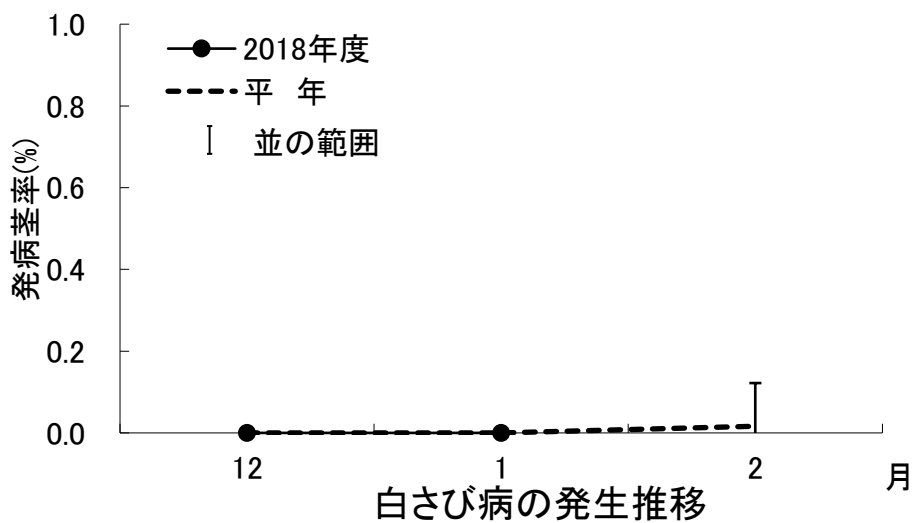


作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病茎率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



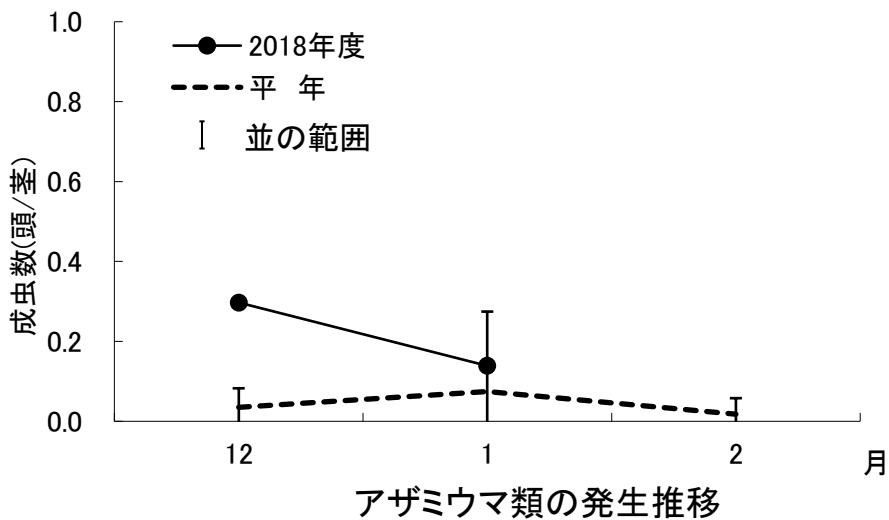
防除員の報告：少発生(久米島)

防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	① アザミウマ類		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



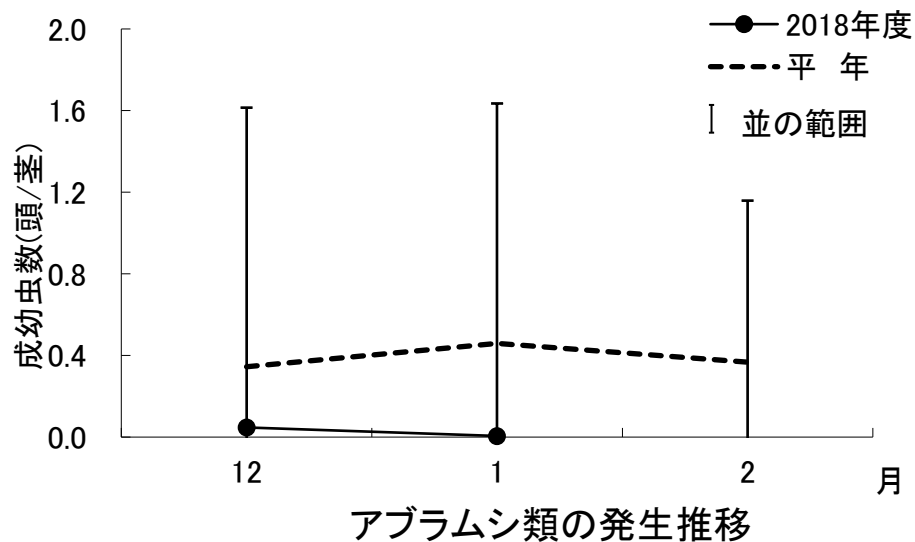
発生種は、クロゲハナアザミウマであった。
 防除員の報告：少発生(本島北部)、中発生(久米島)

防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。


作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

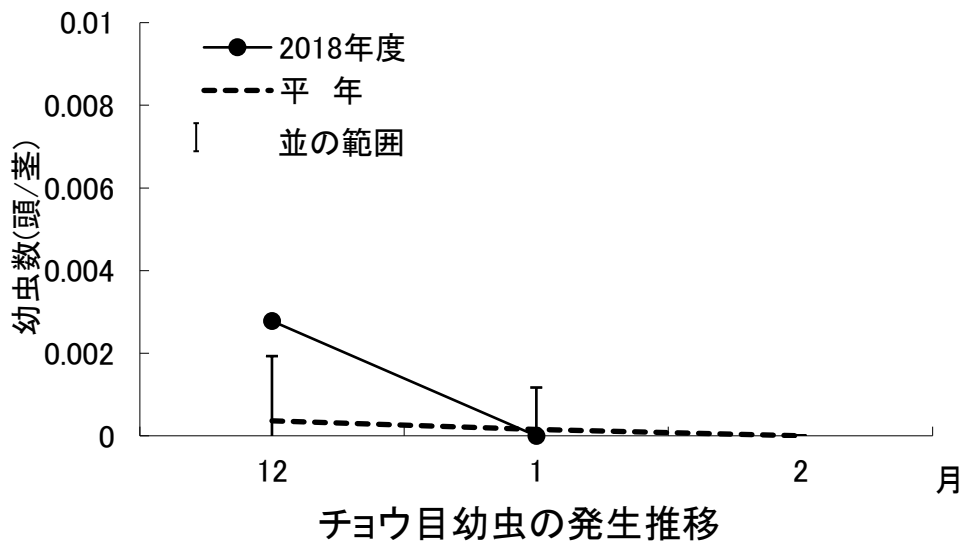


防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- ・シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・増殖が早いので、新葉や上位葉に多いことに留意し、早期発見・早期防除に努める。


作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

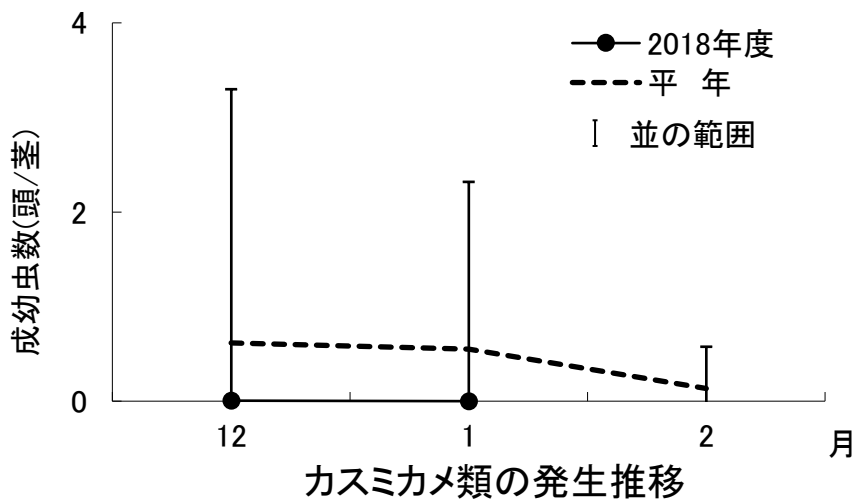


防除のポイント

- ・新しい食痕や虫糞をみつけたら近くに幼虫がないか調べ、捕殺する。
- ・卵塊やふ化直後の幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除く。
- ・中齢期以降は農薬の効果が低くなるため、早期発見に努め、若齢期に防除を行う。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



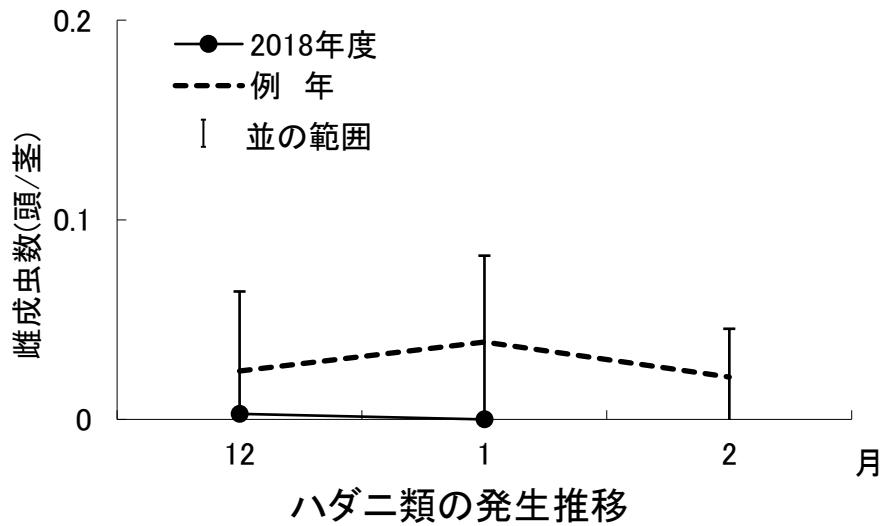
防除員の報告：多発生(本島北部)

防除のポイント

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。

作物	小ギク(彼岸出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	雌成虫数の例年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



防除員の報告：中発生(久米島)

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。